

シート 防水工事 施工要領書

K S - B 3 工 法
(地下外壁等の立壁工法)

株式会社 総建社

〒 130-0013
東京都墨田区錦糸4-10-2
TEL 03-6685-8510
FAX 03-6685-8512

OKS-B3工法

○適用条件

本工法は、RC造をはじめとする堅固な構造を有するセメント系下地の立壁（地下外壁等）に適用します。

1. 点検、清掃

下地を点検清掃し、パイプの根元などに付着したモルタルその他の汚れを取り除き、作業面に泥や油脂分の付着が無いことを確かめてから作業を始めます。

2. 施 工

(1)下地処理

①塗膜防水材による役物処理

出入隅々部、パイプの根元、ドレインの下皿、打継部等に塗膜防水材を補強塗ります。パイプ周りはパイプ、下地双方に巾50mm以上塗りかけます。打継部は継目を中心にして巾100mm以上塗布します。

②プライマー塗布

次に下地表面にプライマーを塗布します。通常の下地に於いては以下の通り使用します。

・立上り

Vシートプライマー原液1：水2にて希釈し、1回塗りとします。下地の吸水が激しい場合は、乾燥後塗り重ねます。

・床 面

Vシートプライマー原液1：水3にて希釈し、2回塗りとします。下地の吸水が激しい場合は、乾燥後塗り重ねます。

(2)シート施工

①Vシートポリマーセメントペースト（以下VPセメントペースト）の調合

・配 合

ポルトランドセメント1袋（25kg）：水9～12ℓ：Vシートプライマー原液0.7kg

・調合手順

調合容器に、セメント1袋当たり8～9ℓの水を入れ、Vシートプライマー原液0.7kgを加えます。

ハンドミキサー等で攪拌しながらセメントを投入し、ダマが無くなるまで十分に攪拌します。その後3～4分放置します。（締まって硬くなる）

再度適量の水を加えて攪拌し、適度な硬さに調整して使用材とします。

※冬季において気温が5℃以下になると予想される場合は防凍剤を使用します。

②Vシートの準備

・立上り用

立ち上りの高さを測定し、床面への折返し分*を加算した長さでVシートを必要量裁断します。巻き癖を直す為1本ずつ逆巻きしておきます。

※床面にもVシートを施工する場合は150mm以上、床面には施工しない場合は500mm以上。

- ・床面用

Vシートのロール1本(50m)を15m位ずつに分割して逆巻きしておきます。
これを、施工面積に合わせて必要量用意しておきます。

③Vシート施工

- ・立上り

ヒシャクを用いてVPセメントペーストを施工面に約1mの巾で適量投げ掛け、金ゴテで厚み4mm程度に塗りつけます。

逆巻きしたVシートの端部を施工面上端に合わせてあてがいます。

Vシートの上から手で押さえてシートを固定し、そのまま貼り下げて行きます。

次に、手又はエア抜きブラシを用いて、エアと一緒にVPセメントペーストが適量はみ出るようにしながらエアを抜いて行きます。

はみ出たVPセメントペーストはコテで均しておきます。

Vシート同士のジョイントは、幅150mm以上でオーバーラップさせ、VPセメントペーストで貼り合わせます。

- ・床面

施工面にVPセメントペーストを金ゴテで厚み4mm程度に均します。

予め逆巻きしておいたVシートのロールを転ろがして、VPセメントペーストを押しつけるようにしながら貼り付けます。

VPセメントペーストを均していない所まで転がしたら、再びVPセメントペーストをコテで均し、以下同様に繰り返しながら貼って行きます。

1スパン貼り終わったら、エア抜きブラシを用いてエアを抜いて行きます。

この際も適量のVPセメントペーストがエアと一緒にはみ出すようにしながら抜いて行きます。

Vシート同士のジョイントは立ち上がりと同様とします。

③軽保護層施工

- ・立上り

下地処理の際と同様に塗膜防水材を調合し、ローラー等を使用してVシート表面に塗布します。塗布量は0.5kg/m²です。

- ・床面

市販のプレミックス軽量モルタルを、メーカーの指示通りに水を加えて混練し、Vシート表面に厚み10mm以上で塗り付けます。

3. 施行後の注意事項

- ・Vシートの施工後は、12時間以上(冬季防凍剤使用)の養生期間を置き、その間は立入り禁止とし、絶対にシートの上を歩いたり、物を乗せたりしないで下さい。

- ・養生期間経過後であっても、保護層施工までは立入り禁止とし、Vシート表面に傷を付ける様な行為はしないで下さい。

- ・資機材を置いたり、Vシート上をみだりに歩いたり、物を落下させたりしないで下さい。コンクリート打設時にスコップ等でVシート施工範囲をこすったり、つついたりしないで下さい。

- ・埋め戻しの際には石やコンクリートガラなどが壁面に直接当たらないように注意しながら行って下さい。

これらはいずれも漏水事故につながる可能性がありますから十分な注意が必要です。

※止むを得ずダメ残しとなる場合は、次回施工時にシートをオーバーラップさせる分(巾300mm程度)には保護層を施工しないで下さい。また、汚れたり傷が付いたりしない様、十分に養生してください。

4. 地下ピット等の施工に当たって

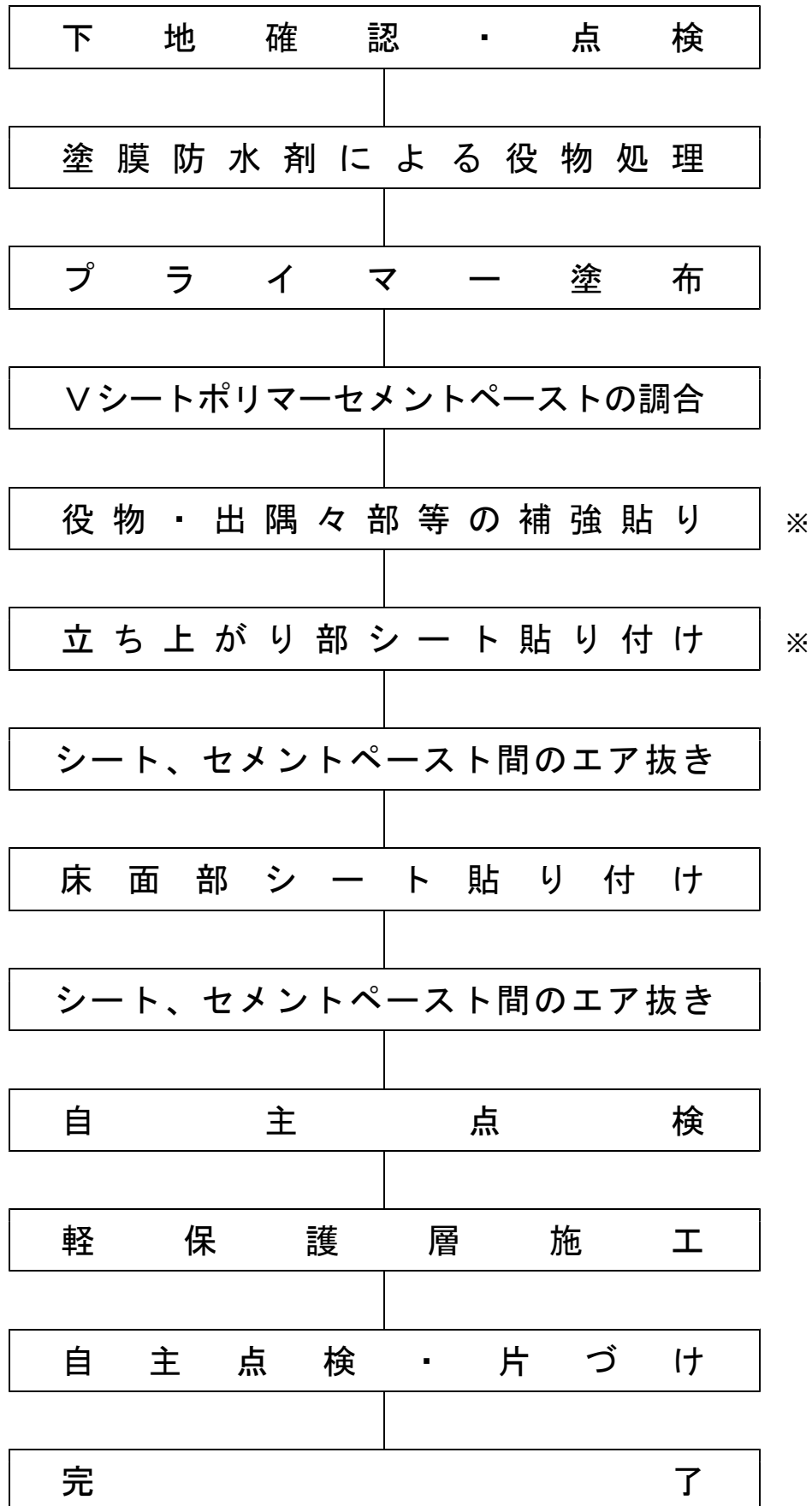
ピットの様な閉鎖空間での施工に当たっては湿気がこもり易く、出隅入隅等の補強塗りに使用するセラミテックスコートの乾燥に除湿機が不可欠となりますので、是非ともご用意下さいませようご協力をお願いします。

(ジェットヒーターは燃料の燃焼によって水蒸気が発生するので適しません)

5. その他

下地条件、上記以外の注意事項、材料の配合・塗布量等については標準工法と同様ですので、標準工法施工要領書の「資料のページ」をご参照下さい。

○ Vシート湿式防水KS-B3工法施工フローチャート



※補強貼りと立ち上がり部のシート貼りは作業の流れにより順序が前後します。

○地下外壁防水断面図（Vシート防水 KS-B3工法）

